ララミーから来た男（1955）

THE MAN FROM LARAMIE

メディア 映画
ジャンル 西部劇
製作国 アメリカ
色彩 Color
時間 102分
初公開日 1955/03/15
公開情報 ＣＯＬ

【解説】

マン監督とスチュワートの黄金コンビの西部劇の面白さは、人間的なジミーが暴力の価値に最後まで否定的なのに、それが活劇自体の面白さと違和感なく結ばれていることで、ロケーションの工夫も常にあり視覚的驚きにも事欠かない。本作はＤ・クリスプ親子の確執に、流れ者のジミーが絡む形で、話の焦点がうまく絞られきらない弱味があるが、大地主のクリスプに反抗する女性牧場主の描き方など、場面にすれば僅かでも、非常にリアルで感心する。ララミーからやって来た元騎兵隊大尉ロックハートは運送業の配達で、アパッチによって弟が命を落とした土地に近い、地主ワグマン支配下の町にやってくる。その老人はかなり強引にのしてきた暴君ではあったが、目を病んで病気になり引退を考えていた。東部出身の妻の虚栄のうちに育てられた息子デイヴはわがままで乱暴で手に負えず、実子のように目をかけているヴィク（ケネディ）が頼みの綱だが、いざとなると息子が可愛い。デイヴに襲われ馬車を焼かれ、ラバを何頭も撃たれ廃業やむなしとなったロックハートは、ヴィクの恋人でデイヴとは従姉妹同士のバーバラに魅かれたこともあり、しばし当地に留まることにした。そのうち、密偵に雇った老人からの情報で、アパッチに通じる者の姿が浮かびあがってくる。彼はデイヴの度重なる嫌がらせに耐え、ワグマンに譲らず自分の小さな牧場を守り続ける老女ケイトを手伝いながら、真相解明の機会を待つが……。アクション場面として面白いのは牛の群れの中でのジミーＶＳケネディの殴り合い。それから目の効かないクリスプが馬に乗ってジミーと対決しようとする、馬上からのショットにはハッとさせられる。彼とケイト役のＡ・マクマホン、二老優がとにかく健闘。単なる勧善徴悪でなく、陰々滅々でもない、見応えのあるウェスタンだ。

【クレジット】

監督	アンソニー・マン	Anthony Mann
製作	ウィリアム・ゲッツ	William Goetz
原作	トーマス・Ｔ・フリン	Thomas T. Flynn
脚本	フィリップ・ヨーダン	Philip Yordan
	フランク・バート	Frank Burt
撮影	チャールズ・ラング・Ｊｒ	Charles Lang Jr.
音楽	ジョージ・ダニング	George Duning
	モリス・Ｗ・ストロフ	Morris W. Stoloff
出演	ジェームズ・スチュワート	James Stewart
	アーサー・ケネディ	Arthur Kennedy
	キャシー・オドネル	Cathy O'Donnell
	ドナルド・クリスプ	Donald Crisp
	アレックス・ニコル	Alex Nicol
	アリーン・マクマホン	Aline MacMahon

このデータベースのデータおよび解説文等の権利はすべて株式会社スティングレイが所有しています 。
データ及び解説文、画像等の無断転用を一切禁じます。 Copyright (C) 2024 Stingray. All Rights Reserved.

ウォーレス・フォード	Wallace Ford
ジャック・イーラム	Jack Elam
グレッグ・バートン	Gregg Barton

このデータベースのデータおよび解説文等の権利はすべて株式会社スティングレイが所有しています 。
データ及び解説文、画像等の無断転用を一切禁じます。 Copyright (C) 2024 Stingray. All Rights Reserved.